
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 353 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2013.05.30 (木) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 1,092 部*****

□ 目 次 □-----

<巻頭言> 続・TPP 参加を云々する前に

—私たちのまわりで何が起きているのか 塩谷哲夫

<第 145 回 定例研究会予告 (2013/06/08) >

テーマ：TPP 交渉参加を問う—選択肢は TPP だけか？

話題提供：金哲洙氏 (日本農業新聞) / 吉田太郎氏(キューバ農業評論家)

<イベント案内 (2013/06/15) >

哲学塾東京分校 (の・ようなもの) セミナー (第 13 回)

内山 節 講演会 & 交流の集いのご案内

『『経済学』になにが言えるのか—地域自立のための経済哲学原論—』

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.129』発行されました

<編集後記> プライド・オブ・プレイス

<巻頭言> 続・TPP 参加を云々する前に

—私たちのまわりで何が起きているのか

私は茨城県南部、牛久・つくば・土浦の 3 市が接するところに住んでいる。
関東平野の平坦な畑作台地の一角である。周りにはいくつものファーマーズ・
マーケットがあり、それらを周って歩くのは私の楽しみのひとつだ。先日も、
JA つくば市谷田部の直売所にお米と野菜を買いに行った。

この農協の産直部会・野菜部門は素晴らしい成果を挙げている。平成 20~22
年の野菜部門の構成員 62 名は全員「エコファーマー」で、平均年間販売高は約
1,000 万円強、販売している野菜の種類 (栽培責任者が決まっている野菜類)
は合計 34 品目に及ぶ。また、畑の生産性を表す 1 ヘクタール当たりの生産額は
64 万円強であった。この稼ぎは水田のコメの約 5 倍に相当する。

ところが、このようなすぐれた経営がある一方で、“困った実態”もある。こうしたプロの農業者は農協組合員のうち 20%にも満たないのである。そのことを知ったとき、私はまるで強烈な地震にあったような衝撃を受けた。すでに管内にはかなりの耕作放棄地があるものと思われるが、組合員の高齢化と後継ぎの農外就労が進行していく状況の下では、何らかの手を打たない限り、今以上に未利用農地が拡大することは確実である。

3月15日、TPP参加で日本の農業は3兆円程度が輸入農産物に取って代わられるという政府試算が発表された。ところが参加するしないにかかわらず、私の周りの実例で示したように、すでに日本の農業は“空洞化”されてしまっているのだ。

しかし、食料は人間が生きて行くためになくてはならないものであり、かならず需要はある。そして、日本には農業生産に十分活用されていない農地がたっぷりある。世界中に日本ほど農業生産のための気候・土壌・水・植生に恵まれたところはないと言ってよいだろう。

その上、生産・加工・販売を支える科学・産業・情報技術・社会システムが備わっている。それを駆使する意欲のある農業の担い手が育つ条件を整えれば、日本の農業・農村の将来は明るい（と思いたい）。増加する世界の人々への食糧供給にも貢献することも出来る。

TPP参加云々を言う前に、こんな日本（ネーション）の農業を実現させるための大きな展望を描き、それに向かったのプランを作り、国家（ステート）に実行させようではありませんか<「ネーション」は“国民国家”であり、「ステート」は“制度的国家”である>。

私は、これを、お話のレベルで終わらせたくはない。

塩谷哲夫

山崎農業研究所 幹事, 東京農工大学名誉教授

yamazaki@yamazaki-i.org

TPP 交渉参加を問う—選択肢は TPP だけか? (2013/06/08)

TPP 交渉参加は、この 7 月の見通しですが、問題は全く不消化のままです。看過すれば、内容不明の工程だけが淡々と進んでいきます。

誰のための、何のための TPP か。「TPP の本質」を米韓 FTA から検証し、「TPP の代替案」をラテンアメリカの *vivir bien* 運動に学ぶ研究会を下記により開催します。

日時：2013 年 6 月 8 日 (土) 13:30~17:00

場所：NTC インターナショナル (株) 会議室

東京都新宿区四谷 3-5 不動産ビル 5F 会議室

(地下鉄丸の内線 四谷三丁目駅 3分)

テーマ：TPP 交渉参加を問う—選択肢は TPP だけか?

話題提供：13:30-16:30

1) TPP の本質を読む—米韓 FTA を踏まえて

金 哲洙氏 (日本農業新聞記者)

2) ラテンアメリカの「より良く生きる (*vivir bien*) 運動」に学ぶ

吉田太郎氏(キューバ農業評論家)

話し合い：16:30~17:00 (終了後 懇親会)

※定例研究会参加希望者は、事前連絡を

y.masunaga@ntc-c.co.jp

までお願いします

<イベント案内>

哲学塾東京分校 (の・ようなもの) セミナー (第 13 回)

内山 節 講演会 & 交流の集いのご案内

「『経済学』になにが言えるのか—地域自立のための経済哲学原論—」

新緑が日に日に濃くなっています。皆様にはお元気で御活躍のことと存じます。今年も内山節さんをお招きしてセミナーを下記のとおり開催することになりました。お忙しいこととは存じますが、御都合をつけてぜひ御参加くださいますよう御案内申し上げます。(主催者より)

◎日時：2013 年 6 月 15 日 (土) 13:00~17:00

12:30～ 受付開始

13:00～ 内山節講演会

講演終了後、交流会（休憩時間を利用したの参加者相互の交流、質疑応答を中心に自由討議。新たな出会いと発見の〈場〉にしたいです。）

◎テーマ：

『『経済学』になにが言えるのか—地域自立のための経済哲学原論—』
《参考文献》

内山節著『自然と人間の哲学』（1988年岩波書店）

内山節著『貨幣の思想—お金について考えた人々』（1997年新潮選書）

内山節著『怯えの時代』（2009年新潮選書）

◎場所：

東京都北区 赤羽エコー広場館 集会室

〒115-0045 東京都北区赤羽 1-1-38 電話 03-3908-3196

・JR 京浜東北線、埼京線 赤羽駅南口より 徒歩2分

◎会費：1,000円（資料代等含む。）

◎懇親会：セミナー終了後、内山さんを囲んでの懇親会を開催します。多彩な参加者同士の交流、出会いの機会でもありますが、お気軽に御参加ください。

（希望者のみ 会費は別途 約3,500円～4,000円程度）

※会場や準備の都合がございますので（定員50人程度）、参加御希望の方は、懇親会参加の有無も含めて、事前に世話人まで御連絡いただければ幸いです。

◎主催：哲学塾東京分校（の・ようなもの）

◎世話人：石橋 浩治 携帯 090-9837-8989

長谷部恒雄 携帯 090-8944-6364

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.129』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.129』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布（有料：1,000円）いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

目次（抜粋）

《土と太陽と》（巻頭言）

TPP は食の安全を破壊する？◎野口 勲

[第 38 回研究所総会・第 36 回山崎記念農業賞]

総会挨拶◎安富六郎

第 36 回山崎記念農業賞贈呈式 (NPO 法人 福島県有機農業ネットワーク)

[選考委員報告] ◎田口 均

[お礼の言葉] ◎渡部よしの

[受賞にあたって] 有機農業が拓く持続可能な地域づくり◎菅野正寿

[お祝いの言葉] ◎高橋久夫

[総会記念フォーラム] 福島県有機農業ネットワークの皆さんを囲んで

(1)3.11 を文明の転換点に◎長谷川 浩

(2)放射能汚染の中での農の営み、この 1 年

—ネットワークの仲間に支えられて◎渡部よしの

(3)つなぐ・結ぶ・創る—生産と消費、現場と研究◎大江正章

[特別寄稿]

自然栽培を追いかけて◎元田裕次

「坂の上の雲」から「崖の上のポニョ」へ◎吉田太郎

〈連載〉“生きもの語り”の世界から〈1〉

「生きもの語り」は科学への違和感から生まれた／宇根 豊

<編集後記> プライド・オブ・プレイス

先日、森まゆみ著『いで湯暮らし』(集英社文庫)を読んだ。「プライド・オブ・プレイス」は単行本刊行時の書名である。「プライド・オブ・プレイス」とは、一言でいえば、その土地で暮らすことへの誇り、ということだろう。

森さんは全国津々浦々、自らの足で歩き、土地に誇りを抱く人々と出会い、その生きる様を活写する。

佐賀の唐津くんちでは何軒もの家にご馳走によばれ(1日に9軒!)、和歌山では地元田辺を離れることなしに世界的な研究を行なった南方熊楠について聞く。また北海道では、小樽運河の保存運動に60歳から取り組んだ峰山富美さんと再会し、石川県では「天を恐れよ」の旗をかかげ、志賀原発運転差止訴訟の筆頭原告を務めた漁師の川辺茂さんに会いに行く。

本書でいちばんグッと来たのはこの一節。山形県白布温泉の旅館・西屋の女将

の言葉だ。

「私は西屋が好きだ。白布が大好きだ。米沢に用があつて出ても帰るときはうきうきする。これから一雨ごとに山桜が咲いて、木の芽が芽ぶいて、山が着飾るみたいになるんだ」

読んでいるこちらまでうきうきしてくる。

単行本のあとがきに、森さんはこう記している。

「人はどんな土地にも住む権利がある。しかし実際には、たまたまその土地と遭遇したり、あるいはたまたま代々住んできたにすぎなかったりする。しかし、それはその人にとってただの空間（スペース）ではない。住むことによって、そこはかけがえのない場所（プレイス）になるのだ」

「プライド・オブ・プレイス」。そうつぶやいてみる。いい言葉だなあとつくづく思う。震災・原発事故後、なんとかふるさとを再興させようと努力し続けている人々を支えているのも、この「プライド・オブ・プレイス」ではないか。

2013年05月30日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売

『自給再考—グローバリゼーションの次は何か』

（発売：2008/11 定価：1,575円）

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん（文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授）

グローバルの次は何？ ～卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん（大地を守る会）

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

- ◎吉田太郎さん（長野県農業大学校教授、執筆者）
キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

- ◎関良基さん（拓殖大学政経学部）

ブログ：代替案 書評：『自給再考 ― グローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

- ◎大内正伸さん（イラストレーター・ライター）

ブログ：神流アトリエ日記 (3) 「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

- ◎ブログ：本に溺りたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

- ◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

- ◎日本農業新聞／書評

（2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優）

<http://yamazaki-i.org/>

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）

- ◎小谷敏さん（大妻女子大学）

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ（2009/01/31）

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

- ◎白崎一裕さん（(株) 共に生きるために）

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）

- ◎塩見直紀さん（半農半X 研究所、執筆者）

ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！
立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

-
- ◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」
-

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

- 2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
- 3、1回1テーマ、10行位に。
- 4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。
- 5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 354 号の締め切りは 06 月 10 日、発行は 06 月 13 日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 353 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2013.05.30（木）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

***** ここまで『電子耕』 *****